

2018年1月27日(土) 第16回「聖書で読み解く映画カフェ」上映作品

「Amazing Grace」の見どころ

Amazing Grace 2006年製作 イギリス映画 118分

あらすじ

●主人公の政治家ウィリアム・ウィルバーフォースが20年の歳月をかけて、奴隷廃止法案を勝ち取るまでの感動実話。若くして政治家となったウィルバーフォース(ヨアン・グリフィズ)と、彼と同じ志を持つ友人のウィリアム・ピット(ベネディクト・カンバーバッチ)。イギリスの主収入源である奴隷貿易に心を痛み、現状を打ち破るべく闘う2人だったが、想像以上の苦戦を強いられ、ウィルバーフォースは大腸炎になって病臥に伏す。その彼を支えたのは、若く美しい妻バーバラ(ロモーラ・ガライ)と師のジョン・ニュートン(アルバート・フィニー)が作詞をした「Amazing Grace」だった。

【上映前】

解説

- イギリス: 古い歴史を持つ、戦前の日本と同じ立憲君主国家。女王の時代に繁栄。エリザベス I (17世紀)、ヴィクトリア(19世紀)、エリザベス II、ダイアナ
- イギリスの政治家: チャーチル、”鉄の女”サッチャー、(チェンバレン、イーデン)
- 奴隷制、奴隷貿易: 19世紀のアメリカのリンカンの奴隷解放宣言、TVドラマ「ルーツ」を思い出すが、これはその1世紀前、18世紀のイギリスを舞台に、名曲「Amazing Grace」の誕生と、その曲と共に20年以上の歳月をかけて奴隷貿易廃止に尽力した政治家ウィリアム・ウィルバーフォースの人生を描いた伝記ドラマ。文部科学省選定。

スタッフ・キャスト

●スタッフ

監督 マイケル・アプテッド

製作 エドワード・R・プレスマン

テレンス・マリク(天国の日々)

●マイケル・アプテッド監督作品

「アガサ 愛の失踪事件」(1979年)(WB)

「歌え! ロレッタ愛のために」(1980年) 「愛は霧のかげに」(1988年)(WB)

「007 ワールド・イズ・ノット・イナフ」(1999年)

「エニグマ」(2001年) イナフ(2002年) 「Amazing Grace」(2006年)

「ナルニア国物語/第3章: アスラン王と魔法の島」(2010年)

●キャスト

ウィリアム・ウィルバーフォース - ヨアン・グリフィズ

バーバラ・スプーナー - ロモーラ・ガライ

ウィリアム・ピット - ベネディクト・カンバーバッチ

チャールズ・ジェームズ・フォックス - マイケル・ガンボン

ジョン・ニュートン - アルバート・フィニー

●クイズ:

①この映画の中の、いいセリフを心に書き留めて。それがこの映画のテーマにつながる。

②名曲「アメイジング・グレイス」がどこで流れるか、お聴きください。

③奴隷の悲惨さは、砂糖製造のシーンの外は、もっぱら言葉の描写で。⇒想像力を働かせよ。(これで、映像よりかえってリアルになる。)

④時代設定が、現在⇒過去⇒現在になっているので、注意しながら見るように。

【上映後】

曲「アメイジング・グレイス」

●ジョン・ニュートン(アルバート・フィニー)が作詞した賛美歌。商船の船乗りとして黒人奴隷の輸送に携わり、のちに牧師となったジョン・ニュートンが、運ばれる間に亡くなっていった たくさんの魂を思いつつ、自分を責めながら牧師として生きる深い悔恨と、そんな自分に赦しを与えた神の愛に対する感謝を込めて作り上げた。彼はウィルバーに「かつて私は盲目だったが今は見える」「奴隷船を海から一掃しろ」と、励ます。「ミラーズ・クロッシング」でマフィアのボスを演じたアルバート・フィニーの目力、貫禄ある演技は他を圧倒している。

●映画の中の歌の場面：① ウィルバーフォースの歌：まず議会で。② 2 度目は結婚式で、失われていた声を取り戻して、妻バーバーらとデュエットで。

③ エンディング曲：なじみのメロディーの編曲で、いかにも英国らしく、民族衣装の奏者によるバグパイプをメイン楽器にして、ロンドンのウェストミンスター前庭から画面前方に行進。バグパイプの単旋律から始まって、打楽器が加わって、更に、今風の管楽器がハーモニーを厚くしていく。この大バンドの演奏は、この曲の奴隷制度反対と、この人権蹂躪の罪への深い悔い改めの思想が、英国国民の中に浸透していったことを示唆する。

●歌「アメイジング・グレイス」を歌った歌手(12人)：

ダイアナ・ロス、セリーヌ・ディオン、レイ・チャールズ、ケルティック・ウーマン、本田美奈子(故)、エルヴィス・プレスリー(故)、ホイットニー・ヒューストン(故)、ヘイリー・ウェステンラ、イル・ディーヴォ、シャルロット・チャーチ、アレサ・フランクリン、リアン・ライムス

奴隷制の歴史

●人類史の中では、戦争のない時代はほとんどないと言われるが、それと並行して、古代ギリシャやローマ時代も主に戦争のための兵力として、奴隷は存在していたのだから、戦争と同様に奴隷制度の歴史も長い。

* 中世バイキングはスラブ人(英語の「Slave 奴隷」の語源)を奴隷にした。

* イスラム人はトルコ人を奴隷としていた。

* イギリス人、アメリカ人は、大西洋奴隷船貿易から、アフリカ系の黒人たちを奴隷とした。

●大西洋奴隷貿易：16世紀から18世紀にかけて3世紀にわたる三角貿易。

* ヨーロッパから武器を輸出し、それを売った金で西アフリカで奴隷を買う。⇒

* 買った奴隷を西インド諸島(南北アメリカの境にあるカリブ海海域の島々)で売る。⇒

* その金で砂糖・香料(いずれも高価)を買い、ヨーロッパに持ち帰って売る。⇒富！

●こうしてアフリカから売られてきた黒人の労働力で綿花の栽培がアメリカ南部の大きな産業となり、その綿花はイギリスの綿工業(リヴァプールが中心)へと発展し、産業革命の基盤へと発展してゆく。したがって、もし奴隷船貿易が行われていなければ、世界の経済産業の歴史も、今の経済や、産業分布も随分と違った姿をしていたことだろう。

●人類の正の歴史と負の歴史(この両者の現実を知ることとはとても大切)：

正の歴史：上記産業革命に加え、ヨーロッパで18世紀に始まった、お茶の習慣が、ヨーロッパ菓子や、料理の世界を拡げ、その影響は、今なお私たちの住む今日の日本の生活をも、豊かで楽しい文化的なものにしている。

負の歴史：このような繁栄と富と生活向上に利した正の歴史の裏には、そのための労働源として、同じ人間が“モノ”として惜しげもなく消費されたという歴史を併せ持つ。

心に残る言葉

●ウィリアム・ウィルバーフォース:

「砂糖は奴隷たちの血の結晶」

「諦めなければ報われる」

「より良い世界をつくるために」

「歴史に汚点を残すな」

「人間は平等に生きる権利を持って生まれた事を忘れないために」

「他人を変えたければ、まず自分が変われ」

●ジョン・ニュートン: 「私は、2万人の奴隷の亡霊と共に生きている」

「見えなかった目も、今は開かれた」

●バーバラ: 「日はまた昇るからよ」

この映画が教えるもの

(1) 人が大いなることを成し遂げるのに必要なもの:

① **努力、信念、勇気**: ウィルバーフォースが、奴隷船による産業の利益を上げていた多くの商人や特権階級の人々がなべて反対する中で、この奴隷制度撤廃法案を可決させるまで、どれ程の努力をし、どれほどの苦労と失敗と挫折があったことだろう。議員300人に対して、ほんの一握りの同志と共に立ち向かった主人公の、必ず正しいことは成るという信念と勇気。

② **協力者**: ウィルバーフォースには、ウィリアム・ピットというかけがえのない友人、背後から励まし続けた恩師ジョン・ニュートン、伴侶として彼の弱さを理解し、支え続けた妻バーバラ、そして彼の主張に賛同し、一緒に進む同志たち (ソーントン夫妻、クラークソン他) がいたからこそ、目的達成の日を迎えることができた。

③ **知恵と戦略**: イギリスという国家を敵に回して、四面楚歌の状況の中で、い

ったんは挫折した奴隷制度の廃止法案を成立させるには、信念プラス;

知恵: 誰が味方になるかを正確に判断して敵を切り崩す知恵と、

戦略: 自分の意見を押し通すための情報を集め、相手を出し抜く作戦を考えるという政治的な戦略も必要。⇒「ノーサス・デキピオ」(ラテン語 “ズル”)

(**マタイ 10:16**) 「蛇のようにさとく、鳩のようにすなおでありなさい。」

(2) **人権(命の安全) < 経済(国益) という論理の底に潜む“罪”**: これが国家を形成した権力者、特権階級の人たちが人類の歴史を支配してきた根本原理。この国家経済至上主義で、現代の日本でも、原発、軍需産業、風俗産業(性の奴隷)、CO2 排出等を正当化してしまっている。その根底にあるのは自己中心の“罪”⇒国家の罪。

(3) **真の変革の力はどこから? ⇒神から!** それを受け取るのは;

●**信仰と希望と愛**: ウィルバーフォースは、これを備えた良きリーダー=神を見る人

信仰: 「君の信仰が欲しい」(ピット): 神が必ず成し遂げてくださる。

希望: 必ず夢に見た平等社会が訪れる: これは神のみ心である。

愛: 一つ的人格(魂)への愛: ×肌の色、貧富、学歴、性差⇒創り主神の隔てなき愛
(**1コリント13:13**) 「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」

●**その3つの力によってまず自分が変わる**こと: 家庭を、地域社会を、国を変えたければ、×人を変える。○私が、あなたが、まず変わること。

*ウィルバーフォースの言葉を、最後にかみしめたい。

「僕が変わる」「**他人を変えたければ、まず自分が変われ**」。(アヘンチンキを絶つ)

(**ローマ 12:1,2**) 「あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。…心の一新によって自分を変えなさい。」 献身と聖霊による一新。

★聖書で読み解く映画って、本当にいいものですね。

ではまた、次回お会いしましょう。ハレルヤ! ハレルヤ! ハレルヤ!